

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センター めぶき園			
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日 ~ 令和7年2月22日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数)	32
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日 ~ 令和7年2月22日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月27日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園を通して、子どもとの関わり方や子育てに対して前向きになっていけるように支援しております。また、親同士がつながる機会にもなっております。	子どもの発達支援の視点だけでなく、親子で一緒に楽しめる活動を大事にしております。場や体験、気持ちを共有できる機会を重ねることで、これから子育てに大きく関わってくると考えております。	発達支援という点では、保護者にわかりやすい説明やエビデンスも必要となってくると考えております。また、家庭でも取り組めることを伝えたり、相談に対して専門性をもって返していくようにしたいです。
2	小集団活動での丁寧な関わり（10名に対して6名のスタッフ） 現場スタッフは全員が、保育士、作業療法士、看護師のいずれかを持っている専門職です。	保育園・幼稚園（大集団）であれば、気づかれないまま過ぎたり、出来ないまま終える経験になりがちな事を、子どもの微細な心身の状況に合わせて関わっています。ただの失敗体験で終わらないように、自己肯定感の獲得へ繋げていけるように支援しています。	小集団活動だけではどうしても行き届かないことがあったり、個別で対応する必要も出てくるため、今後は個別対応も柔軟にできるようにしたいです。
3	保護者相談への対応	作業療法士、看護師、社会福祉士、公認心理師…などの有資格者、相談支援専門員経験のあるスタッフがおり、利用児だけでなく保護者やきょうだいまで含めた家族相談にも応じることが出来ます。	相談をお受けてきた範囲や仕組みを、利用する側にもわかりやすいように提示したいと考えております。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	根拠やエビデンスに基づいた説明が不足している事	子どもの発達段階に合わせた課題設定を行い、療育を提供しているが、保護者へ説明する機会やツールが整っていない。 また、客観的にアセスメントするためのフォーマルなツールを持っていない。	保護者がアクセスしやすいSNSを活用し、日頃の療育活動について発信していくようにしたい。 アセスメントツールについては、心理検査などの導入を進めていきたい。
2	個別療育の必要な児童への支援	開所以来20年以上、小集団のみの療育を行っており、個別対応を考える機会が無いままであった。	個別に対応が必要な児童もいるため、個別療育との組み合わせで支援の枠組みを再構築していきたい。
3			